

「暑さ寒さも彼岸まで」ー再びウィーンへー

清水 泰生

日本語教育連絡会議の HP を見て、開催地がウィーン大学だったのと発表者は論文が書けるといふことなので、会議に申し込んで、ウィーン行きの航空券を予約した。暑くて、発表の準備が進まない。しかし、何とか暑さを我慢して準備に頑張った。ウィーンに行けば涼しい。日本も「暑さ寒さも彼岸まで」だ。

2019年9月4日よいよ、ウィーンに向かって出発。その日の夕方、関西空港を出て台北でトランジェットをしてウィーンへ。エバー航空だったので快適であった。9月5日ウィーンには早朝に着き、列車で市内へ。そのあとウィーン大学へ向かった。ウィーン大学は2017年以来2年ぶりで、ウィーン大学の先生の研究室へ行って挨拶をしてキャンパスの中を少し走った。ウィーンは、大阪とは違って涼しい。ウィーンっ子には「暑さ寒さも彼岸まで」という諺はピンとこないだろうなと思った。そして、宿舎に入り、その日は終わった。次の日(6日)、朝から会議に参加。昼休みシカゴマラソンに向けてトレーニング、大学の構内を40分走った。午後発表(題:スポーツ言語学は日本語、日本語教育を救えるか)、無事終わってそのあと懇親会。そして、その日は終わった。

次の日(7日)も午前中会議があり参加。正午ごろ会議は終わった。来年はリトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学、ここの大学は私は、2009年日本学の学術会議で、スカイプによる遠隔地発表をしたところだ。しかし、パラリンピックと日程が被るので参加できないであろう。

会議が終了後、1時間ほどトレーニング。そして、宿舎に戻り、帰国の準備と次の研究会の発表の準備。翌日の正午ごろの便で帰国した。帰国するとまだ蒸し暑い。「暑さ寒さも彼岸まで」だと思ひ、日本で行われる次の会議の発表の準備をした。

時は流れ翌年、2020年。コロナ禍でその年の日本語教育連絡会議もオンライン開催(8月27日・28日)になり、私もオンラインで参加、私は、スポーツの役割語について発表した。なお、リトアニア開催は2021年になった。延期になったパラリンピックの時期とかち合い、また、11月に延期になったIOC国際オリンピック委員会モナコ会議(IOC World Conference on Prevention of Injury & Illness in Sport)に行く予定でそこへ向けてのエネルギーや費用等を使うことになるので、参加できるかどうかかわからないが参加できればいいなあと思っている。

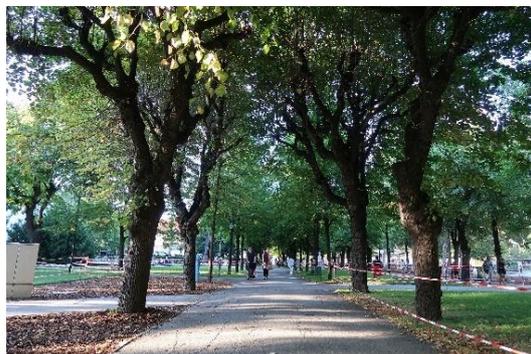
ウィーン大学



ウィーン大学



ウィーン大学のキャンパス



ウィーン大学の日本学の建物の前



ウィーン大学の建物

